

# 下関市の道路管理と歩行者の安全確保について

下関市 建設部 道路課

## 1. はじめに

### ○ 下関市の概要

下関市は、本州の最西端に位置し、関門海峡を境として西を日本海、東を瀬戸内海に接しております。また、市内のほとんどを山間部が占め、特に旧市内と呼ばれる市街地部分は稜線が海岸線に接近し、平地が少ない地形を形成しています。

本市は温暖で過ごしやすい気候であります。市域北部の山間部等では降雪もあり、さまざまな地域性を有しております。

また本市は、地形的に瀬戸内海、日本海といった内海、外洋に接するという利点から、良好な漁港を有し、取扱量日本一を誇るトラフグをはじめとし、水揚げ日本一のアンコウ、うに、鯨等といった海の幸に恵まれ、水産業の盛んな地域であります。

下関の歴史は、本市のもつ特有な地理的条件より、日本の歴史の重要な場面に度々登場しており、古くは12世紀末、源平合戦の最終決戦、壇ノ浦の戦いの起こった地であり、17世紀の初めには、剣豪宮本武蔵と佐々木小次郎が関門海峡に浮かぶ船島（巖流島）で決闘を行ったことが広く知られるところでもあります。また19世紀半ばの幕末、長州藩の高杉晋作はこの地で「奇兵隊」を結成し、長州藩の討幕運動の前線基地となり、明治以降については、日清戦争の講和会議が行われ、下関条約が締結された場所でもあります。



市街地全景



関門橋



巖流島

また、本市は本州最西端に位置することから、本州と九州の接点となっており、関門海峡の対岸に位置する北九州市との経済的、文化的結びつきが非常に強く通勤通学だけでなく日常生活についても両市の人的な交流が盛んです。

また、平成17年2月13日には、下関市、菊川町、豊田町、豊浦町、豊北町の一市四町の合併により、下関市の面積は716.14km<sup>2</sup>、人口は約28万6千人（平成22年7月末現在）となっています。

## 2. 下関市の道路の現況

一市四町の合併により、下関市が現在維持管理している市道も飛躍的に増加し、路線数は約7,000本、道路延長にして約2,100km、となりました。

合併後の市道の維持管理については、本庁管内（旧下関市）については、道路課（平成22年に機構改革により道路建設課、道路管理課が統合）が行なっています。

また、本市は、地域に活力を生み出す仕組みとして「地域内分権」に力を入れており、旧4町管内については、管内ごとに4つの総合支所が置かれ、維持管理の迅速化や地域のニーズに応じた対応ができるよう総合支所の各建設課が市道の維持管理を行っています。

### 道路施設現況

平成22年4月1日現在

	路線延長 (km)	路線本数 (本)	改良済延長 (m)	改良率 (%)	舗装済延長 (m)	舗装率 (%)
本 庁 管 内	1,264.3	5,547	779.8	61.7%	1,150.9	91.0%
菊川総合支所	144.8	126	67.7	46.8%	125.0	86.3%
豊田総合支所	201.5	319	127.6	63.3%	198.0	98.2%
豊浦総合支所	192.0	516	79.1	41.2%	150.0	78.1%
豊北総合支所	305.9	513	135.8	44.4%	282.5	92.4%
合 計	2,108.5	7,021	1,190.0	56.4%	1,906.4	90.4%

## 3. 平成21年度の道路補修等の実績

道路課や各総合支所の建設課では、市民の方々が安全で快適利用できるように、市道の整備や道路パトロール等、維持管理を行っております。

下記の表は、平成21年度に対応した道路補修関係の実績表ですが、下関市内で年間約5000件の道路に対する要望や補修箇所があり、道路管理者として対応を行っています。対応実績としては、約95.5%の件数に対し処理を行っています。

平成21年度 道路補修関係実績表

	要望・発見件数 (件)			処理件数 (件)									未処理	実施率
	地元 要望	道路巡視 職員 パトロール	合計	市道 整備		自然 破損	側溝 清掃	交通 安全 施設	維持 工事	直営 施工	管轄外 支障無 他	処理 合計		
				陥没	その他									
本庁	2,424	2,079	4,503	242	921	248	17	261	24	1,888	773	4,374	129	51.3%
菊川	68	18	86	24	30	0	1	-	1	-	27	83	3	53.9%
豊田	104		104	-	47	20	4	-	6	-	-	77	27	37.0%
豊浦	127	10	137	50	54	-	-	-	-	33	-	137	0	51.9%
豊北	121		121	9	32	-	1	-	-	-	13	55	66	22.7%
計	2,844	2,107	4,951	325	1,084	268	23	261	31	1,921	813	4,726	225	95.5%

上記の道路補修実績の中で、ユニークなものを紹介しますと道路上の動物死骸対応があります。



初めて当課（補修係）に配属された職員は、市道上の動物の死骸を取りに行くと言うと戸惑いますが、委託業者をお願いするだけでなく、実際、直接職員が取りに行くことも多々あります。年間約300件程度の通報があり動物等の死骸について対応しています。

	平成21年度 動物死骸対応件数					単位：件
	ネコ	イヌ	タヌキ	鳥	その他	計
本庁管内	228	9	14	12	10	273
菊川総合支所	6	0	2	1	3	12
豊田総合支所	0	1	0	0	0	1
豊浦総合支所	11	1	0	1	1	14
豊北総合支所	2	1	4	0	8	15
合 計	247	12	20	14	22	315

#### 4. 通学路における歩行者の安全確保について

下関市では、多くの児童が利用する通学路が旧市街地に多いことより、十分な歩道幅員の確保のみならず歩道の設置そのものが困難な箇所が多く、通学路の安全確保に苦慮しています。そのため、歩道の設置が困難な路線については、薄層舗装にて路肩部分をカラー化し歩行者通行空間を明示することで、車両に対して注意喚起を行ない安全を確保しています。



施工前



施工後

薄層カラー舗装による歩行空間の確保

路肩部分のカラー化については、整備当初、色の選定についてさまざまな意見がありました。当初、視覚的に目立つことを理由に黄色を選定しましたが、黄色は警戒色でもあるため交通管理者と協議を行い、外側線を設置し路肩部分を着色することで了承を得て実施しています。

また、路線両側に設置された電柱を路線片側に集約することで、有効幅員幅を確保すると共に、歩行者の通行空間確保に努めています。



施工前



施工後

電柱の移設、薄層カラー舗装による歩行空間の確保



ところで、本市では、『だれもが安心して快適に移動できる活動的なまちづくり』を基本理念とした「下関市交通バリアフリー基本構想」を平成17年2月に策定しています。これにより定められた、駅から主要施設（特定施設）を結ぶ特定経路、及び、これに準ずる経路を加え、整備終了後の長期的な整備も視野に位置付け「下関市交通バリアフリー道路特定事業計画」を策定し整備を進めています。

本市においては、JR在来線の玄関口である下関駅周辺地域と、新幹線の玄関口である新下関駅周辺地域、及び、菊川地区の3箇所において、①交通の円滑化、事故対策 ②歩行者空間のバリアフリー化 を事業実施の基本方針として事業を遂行しています。

具体的な整備項目は以下の表-1の通りで、各玄関口の景観に沿って色合い、街路樹等についても検討を加えています。

表-1 整備項目

方針（目標）	道路特定事業における整備メニュー	
	整備項目	改良の内容
安全で歩きやすい路面の整備	既設道路の改良 視覚障害者誘導用ブロックの改良	・段差の改良
		・舗装面の改良
		・横断勾配の改良
		・横断勾配の改良（浪打ち歩道の改良）
		・道路照明灯の整備
		・グレーチングの改良
・誘導ブロックの改良		
・その他		
安心して快適に歩ける歩行空間の整備	既設歩道等の有効幅員の確保	・柵・車止め・電柱等の移設・集約による有効幅員の拡大
		・その他
	歩道の新設	・既設道路内での歩行空間の確保 ・その他
視覚障害者の移動安全性確保	視覚障害者誘導用ブロックの敷設	・新設整備
		・その他

#### 新下関駅周辺 整備状況



施 工 前



施 工 後



## 5. 市内のめずらしい道路施設

下関市が管理している道路施設の中には、少しめずらしい2つの施設があります。それは、水門橋と下関駅前人工地盤です。

### ◎ 水門橋（下関漁港閘門）

本市の西側に彦島という関門海峡に浮かぶ島があります。橋が跨ぐのは「川」ではなく小瀬戸という「海峡」です。この島と本州本土を往来するルートは3本あり、そのうちの1本が可動橋の水門橋（車道橋）で、形式は橋桁全体が上下に移動する昇降式で、立方体の骨組み構造の4点支持で車道を上げ下げして船や車を通してきます。

正面から見ると閘門の両端にゲートがあり、中央に可動橋の水門橋があります。

船の航行する下関漁港閘門（山口県水産振興局管理）は、パナマ運河のように水位に差があるところを航行するため作られており毎日、朝・昼・夕の3回しか開きません。

近年、水門橋も25年以上たち、さびなど老朽化が目だってきています。施設の改修や塗装など少しずつ行っています。

- ・市道名：彦島本村町36号線
- ・場所：下関市大和町2丁目～彦島本村町6丁目
- ・規模：昇降式鋼床版橋 一等橋（TL-20） 橋長L=12.3m、幅員W=10.5m
- ・完成日：1982（昭和57）年12月25日



水門橋



下関漁港閘門と水門

### ◎ 下関駅前：人工地盤

下関駅東口広場の上に設置した大規模なペデストリアンデッキです。

下関市の玄関口にふさわしい都市機能と快適で魅力のあるまちづくりを目指し、JR下関駅周辺の交通輻輳の解消策の1つとして人と車を分離し、交通の円滑化を図るとともに快適でかつ安全な歩行空間を確保する目的で整備をおこないました。

平成元年より建設を開始した人工地盤は、少しずつ周辺施設と接続されてきました。

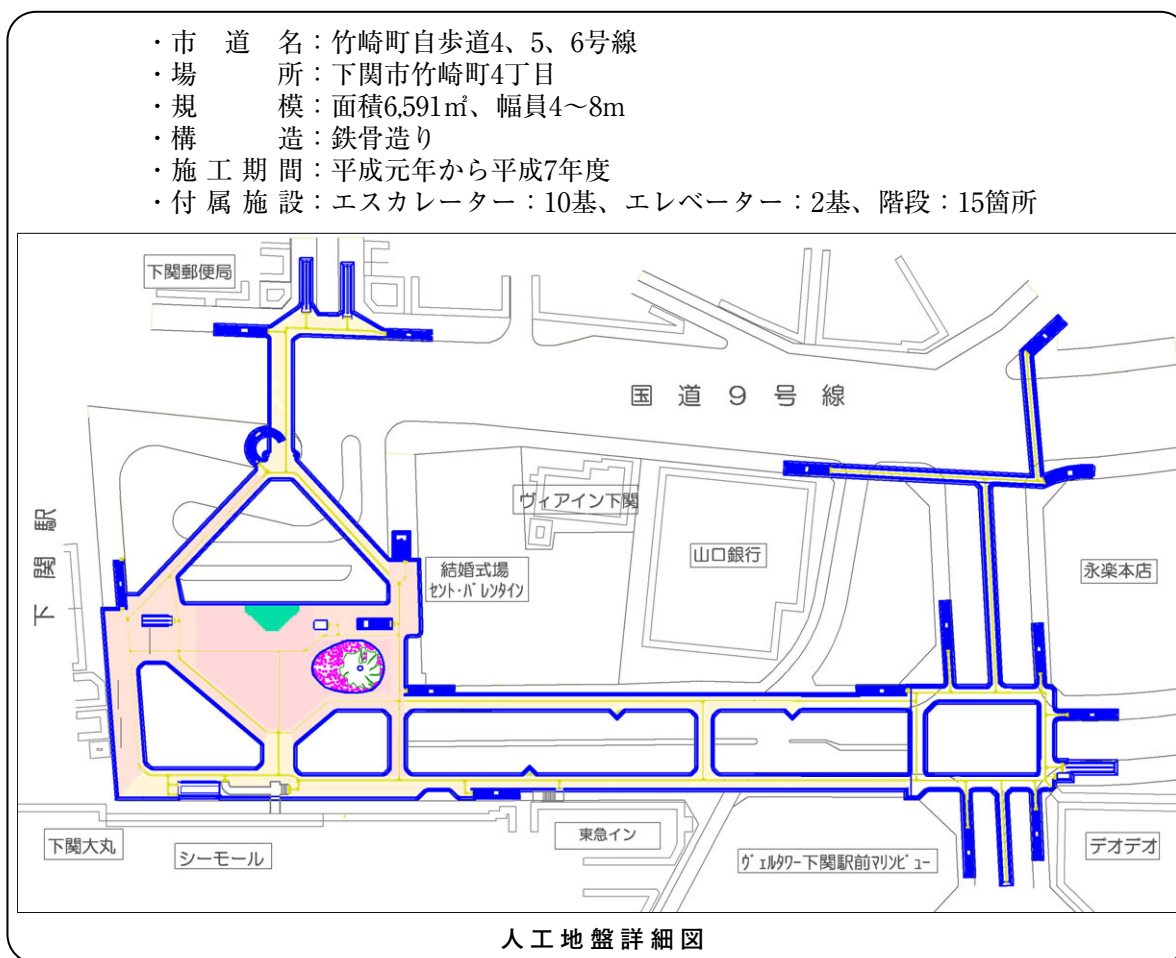


1998年に隣接する大型商業施設シーモールと接続するとともに、国道9号を横断する竹崎歩道橋と接続することにより、山口県でも有数の歓楽街である豊前田地区と道路を横断することなく安全に往来できるようになりました。

2000年にはビジネスホテルと接続するとともに、シーモールと市民会館の間に市民会館連絡通路を設置しました。2001年に家電量販店、2003年にパチンコ店と下関港国際ターミナル、2005年に結婚式場、2007年に業による市街地再開発ビルへ接続しました。

近年では、下関駅の改修計画に伴い人工地盤を駅舎本体に接続する計画が進められており、近々着工予定です。

しかし、管理上では、人工地盤も建設後15年以上たち老朽化が少しずつ目だってきており、エレベーターなどの施設の改修も随時おこなっています。



## 7. おわりに

近年、道路の管理についても、多様な問題がおきています。緊急対応を必要とすることも多く、管理かしが問われることも多々増えています。

今後は下関市でも事後処理の対応だけでなく、橋梁の長寿命化計画や道路施設等に関するアセットマネジメントをすすめ、その損傷・劣化等を将来にわたり把握することにより最も費用対効果の高い維持管理を行う必要があると考えています。